

定期報告（ウルグアイ内政・外交：2017年9月）

【内政】

1 トポランスキー副大統領の就任

13日、両院議員総会においてセンディック副大統領の辞任が承認され、同時に、トポランスキー上院議員（ムヒカ前大統領夫人、MPP所属）が副大統領に就任し、ウルグアイ初の女性副大統領が誕生した。トポランスキー副大統領は、モンテビデオ県議会議員、下院及び上院議員を歴任するベテラン政治家で、バスケス大統領も同副大統領の実績及び交渉力を評価しており「同副大統領の就任で政府の機能が強化される」と期待を表した。トポランスキー副大統領は、優先議題に退役軍人年金制度改革、年金救済制度（“ciuncuentones”の問題）、灌漑法、公職選挙のジェンダー配分制度などを挙げる。16日から20日、バスケス大統領の訪米期間中、同副大統領が大統領代理に就任し、副大統領代理にパトリシア・アヤラ上院議員（MPP）が就任したことで、ウルグアイ史上初めて正副大統領が女性となった。

2 与党F Aの下院における過半数復活

13日、ゴンサロ・ムヒカ下院議員（MPP離脱）が辞職し、30日、ベティアナ・ディアス（MPP）代理候補が代わりに下院議員に就任したことで、与党F Aは下院における過半数を回復した（99議席中50議席）。昨年末、ゴンサロ・ムヒカ下院議員がF A離脱を表明したことに伴いF Aは下院における過半数を失っていた。なお、以前よりムヒカ下院議員は、補正予算案審議が終了次第議員辞職する意向を表明していた。

3 補正予算案の議会承認

18日、議会において2018年度補正予算が可決され、月末に公布された。政府案通り172百万ドルの追加予算が承認され、与党は同補正予算による教育及び社会保障関連予算の拡大等の実績を強調した一方、野党は輸入税増税及びギャンブルへの課税を公約違反であると非難した。

4 ベルガミノ新外務次官の就任

22日、アリエル・ベルガミノ新外務次官が就任し、一方、カンセラ前外務次官はWTOウルグアイ代表部特命全権大使に任命された。ベルガミノ新外務次官は、バスケス大統領と同じ社会党の出身で、直前まで在キューバ大使を務めていた。バスケス大統領の側近で、第一次政権時代には同大統領のスピーチライターを務め、大統領外交の責任者として中南米諸国の大統領顧問等と定期的に会合を行っていた。政治的重みのあるベルガミノ外務次官の就任により、度々政府の外交政策に批判的な立場を取るF Aとの関係改善が期待されている。同次官は、軍事政権時代に投獄され、約5年間スウェーデンで亡命生活を送った経歴がある。

5 在外ウルグアイ人子弟の教育支援

29日、在外ウルグアイ人子弟を対象とする（第一段階はスペイン在住者のみ）オンライン講座「世界のウルグアイ学校」に関する発表が行われ、ニン・ノボア外相及びムニョス教育文化相が出席した。ニン・ノボア外相は、何千ものウルグアイ人子弟が自国の文化、習慣、特徴等の知識及び情報にアクセスし、ウルグアイとの絆を強めることが可能となると、取組を評価した。近年、政府は在外ウルグアイ人との関係強化及び本国への統合支援を行っており、その一環として同取組が開始される。

6 ウルグアイ国防省職員の中国語研修に関する協定署名

29日、共和国大学とウルグアイ国防省は、中国語研修に関する協定に署名し、国防省職員が

同大学で年内開校予定の孔子学院において中国語コースを受講することになった。メネンデス国防相は、中国とは研修制度及び武器を除く物品供与に関する協定があり、戦略的パートナーである中国との関係を、中国語の習得を通じ、経済、文化、大学、生産、軍人養成の分野に拡大する旨述べた。なお、国防省は、共和国大学化学学部及び南極研究所等における職員研修制度も有する。

【外交】

1 岡本三成外務大臣政務官のニン・ノボア外相表敬

4日、岡本三成外務大臣政務官は、ニン・ノボア外相を表敬訪問し、基本的価値を共有し、開放的な経済政策をとるウルグアイが引き続き日本の重要なパートナーであることを確認した。同政務官は、国連安保理非常任理事国であるウルグアイと協力し、北朝鮮への圧力強化を進めていきたい旨述べた。両者は、国連安保理での対応を含め、緊密に連携していくことを確認した。また、同政務官は、昨年12月に発足したウルグアイ・日本友好議員連盟メンバーと意見交換し、今後の議員交流活発化について述べた。更に、JICAシニアボランティアとも意見交換を行い、ウルグアイ社会における貢献に感謝するとともに同活動を支援したい旨述べた。

2 中国との科学技術協力に関する政策協議の開催

4日、第2回ウルグアイ・中国・科学技術協力に関する政策協議がモンテビデオで開催され、Xu Nanping科学技術部副部長、エディス・モラレス教育文化省副大臣が出席した。二国間科学技術協力推進のため、中国の資金援助によるウルグアイ・中国共同研究所の設立に関するMOUが署名され、2019年、第3回となる同政策協議を北京で開催することに合意した。人材交流、共同研究、技術研修等の形態による交流を優先的に実施し、戦略的協力分野として農畜産品開発、技術者・教育者・科学者・研究者交流、再生可能エネルギー及び消エネ、バイオテクノロジー、情報技術及びコミュニケーション、南極調査等の活動を行うことで合意した。

3 リベロフ観光次官の訪中

11日から16日にかけて、リベロフ観光次官は、中国の成都市で開催された第22回国連世界観光機関総会に出席した他、上海及び北京を訪れ、Du国家観光局次席をはじめとする観光関係者との会談、上海外国語大学での講演及び第11回中国ラ米・カリブ・ビジネス・サミットの広報活動等を行った。

4 伯生産者団体による国境封鎖

13日、リオ・グランデ・デル・スル農業生産者連合を含む伯生産者団体約800名が、両国国境沿いのバロン・デ・マウア国際橋（セロ・ラルゴ県）を数時間にわたり封鎖した。同生産者団体は、ウルグアイ産粉乳の輸入により伯の国内価格が引き下げられているとし、伯政府が検討中のウルグアイ産乳製品へのクオータ制度導入の実施を求めて同封鎖を行った。ウルグアイ政府は、同クオータ制度への反対の意を明確にしており、外務省は、在ウルグアイ伯大使に懸念を表明するとともに、状況の正常化及び自由な国境通過を確保するよう申し入れた。乳製品はウルグアイの主要産品であり、生産量の約75%が輸出され、その3割が伯向けである。ここ数年不況が続く乳製品業界にとって、伯による輸入規制は死活問題であると懸念される。

5 ウルグアイ・ルーマニア社会保障協定署名

13日、ニン・ノボア外相同席のもと、ムロ労働社会保障相とヴァシレスク・ルーマニア労働・社会公正相は、二国間社会保障協定、社会保障協定実施のための事務的協定及び共同声明に署名した。ウルグアイ政府は、在外ウルグアイ人支援の一環として他国との社会保障協定署名を推進

している。

6 中国との航空分野の覚書署名

14日、ニン・ノボア外相は、ウルグアイ訪問中のFeng Zhengli中国民用航空局局長と会談した。翌15日、同局長、ロッシ運輸公共事業相、メネンデス国防相、アラルコン航空及び航空インフラ庁長官同席のもと、航空分野の覚書が署名された。双方は、両国の航空会社が週14便を上限に乗客、貨客もしくは貨物のみの運航を行うことを許可する方向で合意し、第五の自由（相手国の領域内で第三国への貨客を積み込み、または第三国からの貨客を積み下ろす権利）についても、事前に合意される中間地点もしくはそれ以遠の第三国を目的地又は出発地とする場合は認められる。双方は、同覚書が航空協定署名への第一歩であり、二国間外交関係樹立30周年となる2018年内の航空協定署名を目指すことで一致した。

7 バスケス大統領の国連総会関連会合出席

18日、バスケス大統領は、グテーレス国連事務総長出席のもと開催された第1回性的搾取・虐待に関するハイレベル会合に出席し、米州を代表してポルノ及び性的嫌がらせをテーマに発表を行った。同日、同大統領は、世界経済フォーラムの枠組みで開催された「働きがいのある人間らしい仕事及び包摂的成長のための国際合意（Global Deal for Decent Work and Inclusive Growth）」と題する会議に出席。19日、バスケス大統領は、アダノムWHO新事務局長と会談した他、エスピノサ・エクアドル外相同席のもとモレノ同国大統領と会談し、8ヶ月以上空席が続くUNASUR事務局長の早期選出の必要性を強調し、現段階で、ウルグアイは同事務局長の候補者を擁立しておらず、他の加盟国が推薦する候補者の支持を検討する用意があると述べた。

8 ニン・ノボア外相の国連総会一般討論演説

25日、ニン・ノボア外相は第72回国連総会で一般討論演説を行った。国連の体制及びメソッドが現代の状況に適合するよう改革することが国連の強化に繋がると述べた。また、核兵器禁止条約の採択を評価し、ウルグアイは既に署名したことに触れつつ、全ての国に対し同条約への署名を促した。更に、北朝鮮による核実験及び弾道ミサイル発射を強く非難し、安保理決議の履行、核不拡散条約（NPT）及びIAEAのセーフガード・システムへの復帰を求めた。同様に、全ての国、特に米国に対し、言葉の応酬を慎むよう求め、あらゆる暴力的なレトリックを避けるべきであると述べた。

【要人往来】

○往訪

- 4日、ベルガラ中央銀行総裁、ロバージョ大統領府副長官の訪米
- 16日～20日、バスケス大統領、ニン・ノボア外相、アストリ経済財務相の訪米
- 25日、ニン・ノボア外相の訪米

○来訪

- 4日、岡本三成外務大臣政務官
- 4日、Xu Nanping 科学技術部副部長
- 13日、ヴァシレスク・ルーマニア労働・社会公正相
- 14日、Feng Zhengli 中国民用航空局局長